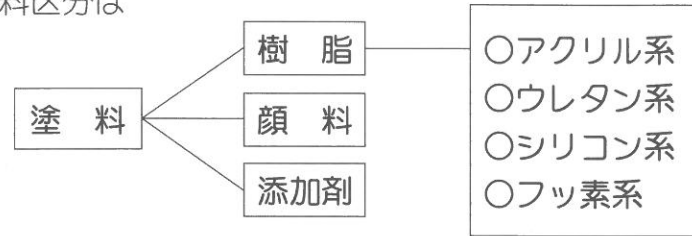


7. 塗料の種類

塗装の耐久性（塗替えのサイクルとも言う）は、使用する材料によって違ってきます。

一般的な塗料区分は



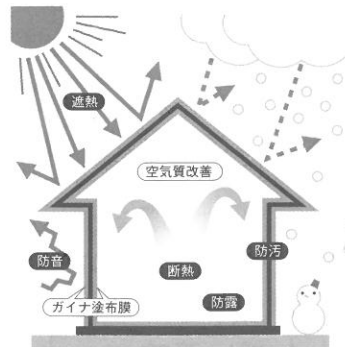
さらには、環境対応塗料材として、光触媒塗料が世に出ています。

これはTOTO光触媒ハイドロテクトとされています。

ノーベル賞候補にもなった、酸化チタンを混入することによって、抗菌効果や、抗カビ効果を発揮し、汚れを分解します。空気の浄化効果（空気をきれいにする）もおこなっています。

東葛も10年前から積極的に取り入れ、毎年入賞し、全国的に5位の実績もあります。

さらに、環境改善の立場から、屋根に塗装することによって、遮熱する（断熱より効果が高い）塗装技術も登場しています。



代表的にはガイナ（宇宙航空研究開発機構JAXAより技術提供）があります。

真夏の暑いときなど、最大6℃位室温を下げる効果もあり、冬などには熱を逃さないから、室温が若干高くなります。又室内に塗装することによって、マイナスイオンを発生し、人間の癒し効果にも期待されています。



尚、遮熱塗料がJIS規格化で進行しています。正しくは、「高日射反射率塗料」として、今年の夏に制定される見込みです。

さらに塗料は、溶剤系と水性系に分けられ、近年安全と環境に配慮することから、水性系のものが多くなりました。

塗替えを考える場合、美観を優先するのか、耐久性を優先するのか、あるいは両方を求めるのか。それとも色とカツヤ、アクセントカラー、防水性能を求めるのか、重点をはっきりさせると良いと思います。

7~8年毎に色の好みが変わるので、塗替えする方にはアクリル系。10年で塗替えを考える方には、ウレタン系。

最近では、シリコン系のものが増えてきましたが、シリコンはおよそ13年位の耐久性が有ると言われています。フッ素系になりますと20年位の超耐久性を有します。（但し、フッ素に健康上問題があると言われているので、東葛では最近使用していません）

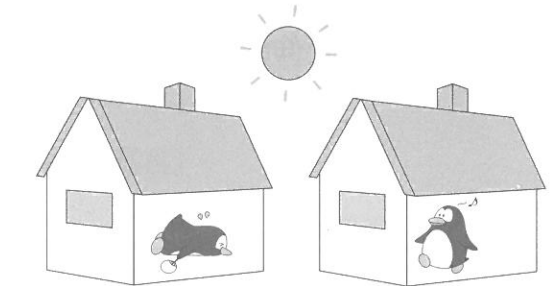
社会の変化により、「建替え」より「リフォーム」で長く住宅を維持する動きが強まり、塗装も従来のアクリル系からウレタン系、シリコン系のものが中心になりました。

これも、住宅の耐久性を長くすると同時に、塗装も平行して耐久性の高いものになってきています。

また、社会的な省エネ時代を反映して、「節電塗装」というものが、世に登場しました。

熱源になる太陽の赤外線を「日射反射」する事によって、暑い太陽光の侵入を防止することができるのです。この為、建物の高温を防ぐことができます。これが遮熱塗装——節電塗装とされています。

代表的なものとして、ガイナ及びシラスがあります。これらを屋根や外壁の塗装に使用することによって、室内温度を6℃~2℃位下げることができます。



シラスパルーンを塗布していない家

シラスパルーンを塗布した家